

事例1 自律兵器の戦争への応用

記事②：ロシアのウクライナ侵攻から1年以上が経過した。この戦争において1つの実験場のように使用されているのが民間のドローンである。2023年3月にはおよそ500機の民間ドローンが前線に送られ、空撮等に使用されている。ここで「空撮“等”」とは何を指すのかを考えてみる。私たちが日常的に入手し楽しむことができる製品である民間のドローンは、戦場という非日常の世界において、思いもよらない形で使用されている。技術が急速に発展するとき、その倫理面を考えようとする声がかき消されがちであるのが常だが、私たちは先端テクノロジーを歓迎する一方で、それが人道的に使用されるかどうか、常に注意しなければならない。



○戦場におけるドローン（イメージ）

問1 下線部から考えられる、ドローンの使われ方とは何か答えましょう。

[]

問2 ドローンを戦場という場で使用する場合、考えられる適切な使用例にはどのようなものがあるか考え、その例をできるだけ答えましょう。

[]

問3 記事②について、自律兵器の戦争への応用、その責任の所在は

ドローン開発／製作者 ・ ドローンの使用者／国 ・ それ以外（ ）

3つのどれが最も大きいと考えますか。理由と合わせて教えてください。（どれかに○をつける）

[]

※ 補足1

自律兵器（＝自律型致死兵器システム）は、「人工知能（AI）を搭載し、人間を介さずに標的を判断し殺傷を判断する無人兵器。自律兵器、AI兵器、ロボット兵器、キラーロボット、殺人口ロボット」とも呼ばれている。これらの使用については軍事専門家と人工知能の専門家間で激しい議論が続けられています。

補足2

これらの問題を一般的な手段で解決する1つの方法として“法整備”をする必要があります。しかし、2022年時点では世界中のどこにも自律兵器に関する具体的な方が施行されている国はありません。国際的な協議や法整備は進んでいますが、特定の法が完全に成立した例はありません。このような中で、使い方によっては上記のような惨劇が行われているのです。

動画視聴

自律兵器について、以下の2つの動画を視聴しましょう。

動画1：https://www.youtube.com/watch?v=q_FKu0zrORw

（未来の教室- Learning Innovation - 自律型致死兵器：自律型致死兵器をどのように分類できるか？ 1）

動画2：<https://www.youtube.com/watch?v=HEvwJUIzAYg>

（未来の教室- Learning Innovation - 自律型致死兵器：自律型致死兵器をどのように分類できるか？ 2）

問4 私たちが本時の問題に対峙したとき、具体的な行動としてできることは何があるでしょうか。“小さな科学者”として、アクションプラン（行動目標）を短期的（～1年以内）、中期的（～10年以内）、長期的（10年以上）のどれでもいいので考えてみましょう。

[]

まとめ

科学者（研究者）の責任とは

誰からも責任をとることを求められず、狭い世界で活動することは許されない。将来の社会と人類に対して責任を持つことをその倫理として確認し、研究することが求められる。そして、現代科学が生み出す「新しい事態」にもこれまでの知識と技術を用いて、変化する社会への要求に対する新しい行動様式の衣を纏わなければならない。

※ 参考 <https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/78045>
<https://www.drone.jp/column/2023042810014865867.html>
村上陽一郎：「科学者とは何か」：新潮選書；p179-p181

最後に、本時の内容について自己評価等を行って下さい。評価項目は以下のとおりです。

グーグルフォームを配信していますので、アクセスし、自己評価等を行って下さい。

（以下のURLまたは右の2次元コードからも可能です。）

URL：<https://forms.gle/Y2JWc8yxeUJkPvcp8>



<評価表・評価項目>

フェーズ	項目	チェック
Iフェーズ （知識・技能）	自律兵器について、その内容を理解できた	
Cフェーズ （思考・判断・表現）	自律兵器に対する自らの倫理的な立ち位置をはっきりさせ、自身の意見を述べる（考える）ことができた	
Eフェーズ （主体的に学習に取り組む態度）	グーグルフォーム内にて行います	

年 組 号 氏名